BAISOUIN NEWS AOYAMA

梅窓院通信 青山

秋彼岸号

No.84

2016/09/01

5月10日、鎌倉光明寺への団体参拝での記念写真。新しく法主になられた台下と一緒に本堂にて。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 **中島 真成**

今年も早いもので九月、長月となりました。皆さん、お変わりなくお過ごしでしょうか。

この五月に鎌倉の光明寺へ団体参拝で訪れました。第百十三世になられる　　台下に拝謁し、光明寺名物の精進料理をいただきました。その後、鎌倉大仏で有名な高徳院では庭園を、臨済宗大本山の建長寺では修行道場を見学させていただきました。普通の観光ではお会いできない台下からのお話を伺えたり、特別な場所に行けたりすることが、梅窓院主催の参拝旅行の特徴です。毎年企画していますのでどうぞご参加下さい。

六月の開山忌では法要の参列者の二倍近い方がお能を鑑賞されました。お能も法要の一部ですので、お能だけを鑑賞に来られる一般の方々にも法要に参列していただけるよう、来年は工夫したいと思っています。

締め切りも間近になりましたが、秋彼岸写真展へのご応募をお待ちしています。昨年から応募方法を簡単にしましたが、思いのほか応募者が少なく、今年の状況次第では来年の開催を見合わせることになるかもしれません。詳細は同封の案内チラシをご覧いただき、お気軽にご応募下さい。

十月の文化講演会には西園寺一晃さんに中国に関する講演をしていただきます。西園寺さんは、明治期の総理大臣も務められた西園寺公望公爵のひ孫さんにあたります。実は一晃さんと私は学生時代から交遊があり、今回の講演依頼となりました。わかりやすく中国のことをお話しいただきますので、ぜひ足をお運び下さい。

駆け足でのお願いばかりになりましたが、よろしくお願い申し上げ、今号の挨拶とさせていただきます。

法話

仏教歳時風物詩（35）

赤とんぼへの郷愁

新宿区　香運寺住職　勝崎 裕彦

郷愁という言葉には、空間的にふるさとをなつかしむ思いと、時間的に過ぎ去った過去をなつかしむ思いの二つの意味があるという。私は単純に字解きをして、「ふるさとへの秋の心」が、郷愁であると思っている。

愁という文字の解字は、心＋（音符）秋の会意兼形声文字。秋という字は、作物（禾）を集めてたばねる（束→火）という第一字義と、作物を火でかわかし収縮させて引き締めるという第二字義がある。愁という字は、心を細く敏感に引き締めるということであり、音符の秋はかぼそい泣き声を表す擬声語でもある。「うれい」という訓読みがあるように、心細いさま、わびしいさまを表すが、もっと言えば心が引き締まってせつないさま、なつかしいさまが、まさに愁という文字の意味なのである。

そして、ふるさとへ秋の心を深くはるかに寄せて心引き締める時、私の心には「赤とんぼ」（三木露風作詞）の童謡が遠くなつかしく、やさしく聞こえてくる。

夕焼小焼の　赤とんぼ
負われて見たのは　いつの日か
山の畑の　桑の実を
小籠に摘んだは　まぼろしか

姐（ねえ）やに背負われて見た赤とんぼ、竿の先にとまっている赤とんぼ……。私も胸の奥深くに、遠いあの日のはるかなる夕焼け空へ、なつかしい思い出をまぼろしのごとく思い描いてみる。

とんぼは、初秋・仲秋・晩秋の三秋にわたっての秋の季語である。とんぼは種類も多く、呼び方の名称・異称も多様である。漢字に当てる時は、蜻蛉・蜻蜓などと書き、あきつ（秋津）、あかね（茜）、やんま・きゃんま・えんま・えんば（卒）など、その変化形も含めて別称もさまざまで、季語欄を豊かにしている。

その中で、仏蜻蛉（ほとけとんぼ）・精霊蜻蛉（しょうろうとんぼ）は亡くなった精霊（みたま）の生まれ変わりとして尊く信じられ、陰暦旧盆の初秋の頃に飛びめぐって、大切な仏教季語となっている。

蜻蜓（とんぼう）や施餓鬼の飯の箸の先　（大魯）

「とんぼう」と読む。与謝蕪村に師事した吉分大魯の句。同じ蕪村派の黒柳召波の句には、「とんぼうや飯の先までひたと来る」とあり、露風の「竿の先」の心象風景からは大分はずれてしまう感もあるが。

蜻蛉や笠より長き僧の杖　（余子）

松根東洋城と親交を結んだ小杉余子は、古風一徹な句風で参禅修行も深く、禅僧の錫杖の先に止まったとんぼを見つめている。

焼香箸のように通っていつた赤とんぼ　（源二）

松原地蔵尊らとともに前衛的な新興俳句運動を展開した細谷源二は、「焼香箸」を持ってきて、初五を思い切って余り字にした。

最後に夏目漱石の一句。やはり亡き人のいのちを見つめている。

生きて仰ぐ空の高さよ赤蜻蛉　（漱石）

赤とんぼへの郷愁に寄せて、一途（いちず）に湧き起こってくる恋い焦がれるばかりの望郷の思いの強さ。その中には、ふるさとにあります今は亡きなつかしい人々の面影へのせつなさ。私は、亡き父母祖父母を敬い慕い、追善供養の心をしっかりと抱き包んで、我が仏心をひたすらに深め清めたい。（大正大学前学長）

五・六・七月の行事報告

第68回 念仏と法話の会 6月8日（水）

郡上おどり in 青山法要 6月24日（金）

法要後に本堂で郡上おどりを奉納する郡上おどり保存会の皆さん。

開山忌法要・能楽奉納 6月11日（土）

盂蘭盆会法要 7月13日（水）

秋彼岸法要

九月二十二日（木）

彼岸寄席

午後一時～地下二階　祖師堂にて

法要

午後二時～地下二階　祖師堂にて

※ご法要の受付は一階観音堂にてお済ませ下さい。

三遊亭歌る多師匠

プロフィール

一九六二年荒川区生まれ。
一九八一年三遊亭圓歌師匠に入門。
一九九三年女性初の真打ち昇進（女流枠）。
二〇〇〇年女流枠撤廃され、男性と同様の真打ち扱い。寄席・落語の会から、講演会・司会業、コラム執筆など活動の場は幅広い。
二〇一〇年六月より落語協会理事・演芸家連合常任理事就任。
前座：三遊亭歌むいさん

塔婆申込み方法

塔婆回向料…一本／七千円

●同封のハガキにご記入の上九月十五日必着でお申込み下さい。

●御回向料は、同封の振込用紙で郵便局にてお支払い頂くか、受付までお持ち下さい。（銀行・コンビニでのお支払いはできません。）

お檀家様へお願い

●お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用下さい。

●九月十九日～二十五日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせて頂きます。ご協力お願い致します。

第7回 秋彼岸写真展のお知らせ

応募作品を観音堂（1階）に展示致します。
締め切りは9月15日（木）です。ご応募お待ちしております。
※詳細は同封チラシをご覧下さい。

平成28年度
秋の動物慰霊法要のお知らせ

梅窓院の僧侶がご供養に努めます。
ぜひご参列下さい。

時　：正午
於　：2階本堂
主催：株式会社日本エキスパートシステム

秋彼岸によせて

彼岸と言いますと、大きく二つの目的があります。「悟りを得ること」と「ご先祖様の供養」です。

悟りを得るための修行には、

一、施しをして、報いを求めないこと
二、仏様が定めた約束を守ること
三、人生の苦難を耐え忍び、怒りを捨てること
四、努力し続けること
五、集中して、心を安定させること
六、愚痴の心をなくし、迷いを断ち、真理を悟ること

という六つの修行があります。

どれを取っても、私たちが生活をする上で心掛けていかなければならない大切な徳目であります。しかし、その日の生活に追われ、煩悩に迷いながらこの世を生きている私たちにとって簡単な事ではありません。

浄土宗を開かれた法然上人は、苦悩の中から厳しい修行の積み重ねによる悟りの道を捨て、全ての人々が救われていく道を求められました。

法然上人がお詠みになったお歌で、こんなお歌があります。

あみた仏と心は西に空蟬（うつせみ）のもぬけ果てたる声ぞ涼しき

極楽浄土を願い、一心にお念仏すれば、丁度蟬の抜け殻のように、何もかも打ち忘れ、苦しみ悩みから抜け出して、清々しい声でお念仏を喜ぶ事が出来ますという事を詠ったお歌です。

法然上人以前の仏教は悟りを得るために先にあげた六つの修行を説きますが、それを成す事が難しい私たちの為に用意された特別な道が法然上人が説かれた、この「南無阿弥陀仏」とお唱えするお念仏です。

どうぞ、お彼岸だけではなく、毎日の生活の中にしっかりと信じ願う心でお念仏を申して頂けたら、きっと阿弥陀様が極楽浄土へ導いて下さる事でしょう。

（法務部）

西園寺公望公爵のひ孫

西園寺一晃氏による秋の文化講演会に寄せて

日本と中国が仲良くなるために必要なこと

今やアメリカと並ぶ勢いで世界をリードする経済大国の中国ですが、その中国の北京で学生生活を送った西園寺一晃さん。明治から昭和の歴史に登場する政治家、西園寺公望（きんもち）公爵のひ孫さんです。その西園寺さんは現在、工学院大学孔子学院学院長。中国の内実に造詣が深く、教育、講演活動などを通じて日本と中国の関係の発展のために活動をされています。また、西園寺一晃さんは梅窓院中島住職と四十年を超える旧知の友人でもあるのです。この秋の文化講演会でお話しいただく、西園寺一晃さんにお話しを伺いました。

『中島住職との出会い』

●この秋には当梅窓院の文化講演会でお話しをしていただきます。よろしくお願いいたします。

西園寺一晃氏（以下西園寺）　こちらこそ、よろしくお願いいたします。

●早速ですが、現在の主たる仕事は工学院大学孔子学院の学院長でよろしいのでしょうか。

西園寺　はい、二〇〇八年に北京航空航天大学と提携し、日本の工科系大学では初めての孔子学院が設立されました。設立のお手伝いをしたことから初代学院長として今を迎えています。

●孔子学院と聞くと、『論語』で有名な孔子の教えを学ぶ学校と思うのですが……。

西園寺　ええ、多くの方がそう思われますが、中国語と中国文化を国際社会に広めるために中国が国の政策として世界各地に設立している学院です。

●その孔子学院の学院長と梅窓院の中島住職が旧知の仲ということで今回の講演依頼をさせていただいたのですが、中島住職との出会いを最初にお話しいただけますでしょうか。

西園寺　住職とは、住職がまだ大正大学の学生の頃、東京都日中友好協会でお会いしました。

●住職は大学時代、中国仏教を勉強していたと聞いています。

西園寺　はい、そうした関係で先の協会の青年部に所属されたのではないでしょうか。そして、その青年部担当の役員が私だったのです。

●住職にはどんな印象を持たれましたか。

西園寺　とても真面目で無口。朴訥（ぼくとつ）な感じで、何でもコツコツと取り組んだ好青年でした。

●住職に聞くと、当時は行事という行事でよく働かされた、と笑っていましたが……。

西園寺　そうです（笑）。

当時は社会全体にイデオロギーとかセクトという言葉が蔓延していた時代でしたが、住職は無色、私も無色でしたから気が合って、何でも住職に頼んでいましたからね。

●なるほど。とはいえ、年齢差はかなりあったかと思うのですが。

西園寺　ええ、私が昭和十七年生まれで住職が三十二年生まれですから、十五歳違いますね。でも、しばしば食事を一緒にしたり、とてもいい関係でした。

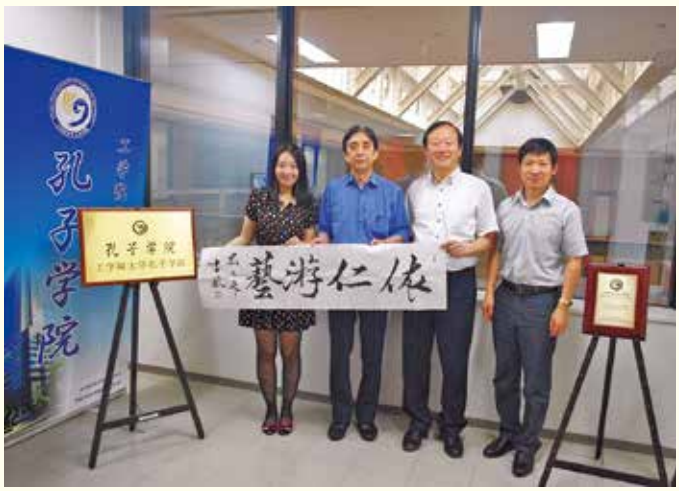
『深く緊密な日中の歴史』

●西園寺さんは北京大学を卒業されていますよね。

西園寺　はい、十六歳の時に一家で中国へ移住し、十年間住みましたので、大学は北京大学で、経済学を学びました。

●そうですか。ご帰国されてから中国での生活経験

中島住職と久しぶりの再会を喜ばれていた西園寺一晃さん。



新宿西口の工学院大学の4階にある孔子学院入口で在日華人協会の方たちとの記念写真。

西園寺さんは火曜日から土曜日まで学院に通い、週に数コマの授業を担当されている。

があるからこそ書けた本を出版されていますね。

西園寺　もう古い話ですが、中国での生活からわかる中国の魅力を伝えようとしました。

●中国と日本の関係は古くて深いはずなのに、今はギクシャクしているように思えますが。

西園寺　そうですね。同じ漢字を使う文化圏ですし、中華人民共和国という国名の、「人民」と「共和」は、日本が中国から伝わった漢字で新たに作った言葉です。

●そうなのですか。中国の国名に日本が作った言葉が使われているのですね。

西園寺　ええ。歴史を遡れば、日本文化の多くは中国から伝わったものですし、清朝後の中国は明治・大正の日本に多くの人材を派遣し、学んでいます。

隣国である中国と日本の関係は本当に古くて深くて緊密なものなのです。

『関係改善に必要なこととは』

●そうした日中関係を良くするには何が必要なのでしょうか。

西園寺　そうですね。それこそこの秋に文化講演会で私が皆さんにお話しさせていただくことですが、「国は違っても人のやる事は変わらない」ということと、「隣国ながら大きな違いを認め合うこと」です。

●何か真逆な二つのことのように聞こえますが……。

西園寺　そうですね。誤解を恐れず簡単に言うと、今中国というと話題になる爆買いや環境問題、これはまさに日本が歩んできた道です。それと、資本主義と共産主義という大きく違う社会体制で歩んできたことを認め合うこと、ということですね。

●土壌は違っていても、同じ道を歩んで来たことを認め合う、ということでしょうか。

西園寺　はい、中国と日本の関係はもつれ過ぎましたが、それを打開するためには、地道な民衆間や戦争を知らない若者間の文化交流を積み上げることでしょう。マスコミの報道に迷わされることなく、身近な触れ合いを大切にしていく。そんなお話しをしたいと思っています。

●十月の文化講演会、楽しみにしています。本日はどうもありがとうございました。

西園寺 一晃（さいおんじ かずてる）

昭和17年東京生まれ。曾祖父は西園寺公望。昭和33年、一家で中国へ移住。10年間の在住中に北京大学経済学部を卒業、帰国前年には文化大革命にも遭遇する。
帰国後、朝日新聞社に入社、調査研究室に勤務する。また、東京都日中友好協会などにも所属している。現在は工学院大学孔子学院学院長として活躍中。
著書に『青春の北京』、『知って欲しい中国の暮らし』、『中国辺境をゆく』など。

第13回文化講演会

日本と中国は仲良くできるか
―両国関係の将来を考える

平成28年10月15日（土）
午後2時15分開場　午後3時開演
入場無料
先着300名（事前申込制）
※詳しくは別紙チラシをご覧下さい。

お申し込みお待ちしております。

インタビュー

梅窓院を囲む人々

supporters of baisouin

大念寺住職

今回の囲む人々は東日本大震災によって甚大な被害を受けた岩手県大槌町の大念寺　　住職に話を伺いました。梅窓院の思い出に加え、忘れてはならない震災の話もしていただきました。

◆本日はよろしくお願いいたします。

遠くまでようこそお出で下さいました。遠かったでしょう。

◆昨夜は北上に泊まり、今朝こちらに向かいましたが、近くまで来たら盛り土工事で道が寸断されていて、大分迷いました。

お寺の前の道路は7月の完成に向け、急ピッチで造成中。震災から5年経ったけれど、復興はまだまだ先だね。

◆そうなのですね。大念寺さんは奇跡的に被災を免れたとのことですが、その話の前に梅窓院時代の話をお聞かせ下さい。

昭和53年3月から1年だけお世話になりました。同じ岩手の鳥谷寺の　　さんの紹介でした。

◆花巻の　　上人ですね。

はい。高校入学時に先代である父のガンが発覚、お寺を継ぐ決意をし、3年の時に得度しました。大正大学仏教学部に入学するということで、梅窓院にお世話になりました。

◆そうですか、でも1年とは短かったですね。

思ったより随身は忙しく、学業に専念できなかったからです。幸いに従兄も東京の大学で曹洞宗の僧侶を目指していて、彼と一緒にアパートを借りることができたので、梅窓院を出ました。

◆なるほど、1年間の梅窓院での随身はいかがでしたか。

いろいろなことを教えて頂きました。

法務はもちろん、掃除と炊事など生活に必要なことを実際に体験する中で身につけることができました。

◆大変だったことは何でしたか。

炊事です。一週間分のメニューを考え、買い出しから調理まで。それまで料理は何もしていませんからね。

◆なるほど、法務はもちろん、家事全般をこなすこともあり、随身はなかなか大変だったのですね。

ここからは震災の話を伺いたいのですが、大念寺は奇跡的に津波からも、三日三晩燃え続けた火災からも難を逃れたとのことですが。

津波は山門のすぐ手前まで、裏山からの火災も運よく伽藍には燃え移らなかったのです。先ほど話した従兄の曹洞宗のお寺は町中にあり、すべて流されました。従兄の父は亡くなり、息子さんは行方不明です。

大念寺本堂前で、中島住職と　　上人。

◆お寺が残ったことで、震災後には避難所になったのですね。

7月までの5か月間、避難所として40人がこの客間で生活しました。また、被災から11日目にご遺骨を預かって欲しいという方がお見えになり、それからご遺骨がどんどん増え、多いときにはおよそ200体にもなりました。いまだに身元不明のご遺骨が36体ありますが、大槌町が現在、納骨堂を建設中で、他のお寺にある身元不明のご遺骨も合わせ、来年の春頃には納められる予定です。

◆そうですか。震災から5年、東京での報道も少なくなり、現地のことが伝わりにくくなっていますが、復興までは大変な道のりですね。

ええ、ご覧のとおりお寺の目の前の道路もようやく整えられていますが、従兄のお寺は同じ場所に盛り土をして、そこに床を高くした本堂を建てる予定です。盛り土が落ち着くまでに数年かかりますから、まだまだ先の話になります。

◆震災で気づかされたことは何でしょう。

お寺として、思ったよりも周囲に頼られたことですね。幸いにほぼ無傷で残ったお寺ですから、避難所となり、その責任者として食料の配給や水の手配など、それこそ寝る間もない忙しさでした。後で言われましたが、住職、あの頃は目つきが怖かったと（笑）。体重も1年で15キロ減りました。また、いろいろな相談がひっきりなしでした。

少し落ち着くと、今度は様々な役職を頂きました。4つの小学校と中学校を一緒にする小中一貫の大槌学園の運営委員長を任名されたり、釜石仏教界の会長、保護司会役員など。おかげさまで、「決断は早くする」、「やるべきことはすぐやり、仕事をためない」ということが、自然と身につきました。

◆本当に大変だったのですね。まだまだ伺いたいことばかりですが、これで失礼させて頂きます。ありがとうございました。

いいえ。どうぞ、復興の現状を皆さんにお伝え下さい。

すべてが流された大槌町。町中はまだ盛り土工事の真っ最中で、震災の記憶をとどめるために残された旧役場庁舎の建物以外にはコンビニやクリーニング店等、建物は数える程だった。

大念寺では今も預かっている身元不明のご遺骨を安置、供養している。

職員の約半数の40名が流された旧役場庁舎。手前には献花台が設けられ、供養の場所となっている。

山門から見下ろす一帯には大型重機と盛り土と舗装中の道路しか見えない。

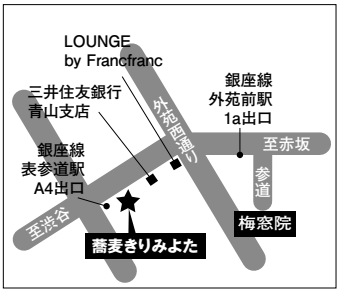
青山散歩道

蕎麦きり　みよた

今回は、女性やカップルの行列が途切れない「蕎麦きり　みよた」を紹介します。

昨年四月、女性や若者にも美味しいお蕎麦を気軽に食べてもらいたいと、今までにないコンセプトのお蕎麦屋さんが表参道にオープン。　人気の秘密は全てのメニューが千円以下ながら、ボリューム満点で、しかも季節のメニューが春・初夏・夏・秋・冬と年五回あり、旬の食材が気軽に楽しめること。加えて女性客や若者客、そして表参道という場所柄を考慮した空間作りも魅力のひとつ。外観は清潔感溢れる美しい藍色で、大きな窓ガラス越しに見えるカウンターのみの店内も料亭さながらの品の良さ。なるほど女性客五割も頷けます。

蕎麦屋さんの新天地を切り開いたともいえるこのお店、行列覚悟で昼でも夜でも、ぜひ足をお運び下さい。



営業時間／月～土10:00～22:00
／日・祝10:00～20:00
定休日／無休
席数／カウンター席のみ(15席)
住所／東京都港区南青山3-12-13
TEL／03-5411-8741

極みカツ丼セット　肉厚でジューシーな豚ロースにトロトロな卵が絡み合って絶品。このボリュームで930円とは驚きだ。

夏メニューの冷し鴨茄子そば。840円。鴨肉と季節の野菜が添えられている。さっぱりといただけて、暑い夏にピッタリ。

青山通りに面した店舗。昼夜問わずの行列が目印にもなっている。

第六十四回　食は命なり

物忘れをふせぐ「山の芋」

食養研究家　武鈴子

ネバネバ、ヌルヌルの食べものが老化を防ぐ健康食として注目されています。ネバネバの正体は食物繊維の「ムチン」。これは胃の粘膜を守る働きがあり、胃炎や胃潰瘍を予防し、アルコールから胃壁を守る働きがあります。また、血中コレステロール値を改善し、血糖値の急激な上昇を抑える働きが知られています。

主な食べ物では、山芋や里芋、納豆、なめこ、オクラ、モロヘイヤなどがあります。日本では、はるか昔から山芋が滋養食品として親しまれてきました。江戸時代の「和歌食物本草」には「山の芋　物忘れする人によし　痩せたる人の肌をうるおす」と詠まれています。

漢方では「山薬」（さんやく）と呼んで、漢方薬の生薬になっており、薬物書には「腎気を益（ま）し、脾胃を健やかにし、下痢を止め、痰、よだれを消し、皮膚・毛髪を潤す」と記載されています。

漢方の考えでは、老化は腎機能の衰えと言われていますが、昔から長寿者が“腎気を益す”山芋を好んで食べていたのもうなずけます。代表的な食べものが「麦とろ」ですが、麦も消化を助け、糖尿病によい食材です。夏の暑さで疲れた胃腸を癒すには最適な食べ物でしょう。

もう一つ、江戸時代の料理本に「精進しんじょ」というのがありました。山芋をすりおろし、豆腐を加えてすり混ぜ、小麦粉を加えたものを、熱湯に杓子ですくい入れながら茹でる料理で、魚を使わない、“精進のしんじょ”。山の薬と畑の肉のヌルヌル滋養コラボです!

青山俳壇

選者『ウエップ俳句通信』編集長　大崎紀夫

◎特選

○見上げれば余花の一枝と白き雲

◎入選

○香煙のゆるることなき大暑かな

○夕立や猫はあわてて目を覚ます

○でで虫の時速三メートルで過ぐ

○河鹿鳴く棚田の畦のくねくねと

○夏帽子待合室に忘れきて

○釣り人の帽子の上に夏の蝶

○鉢植ゑの蛍袋が店先に

○海風の通ふ坂道夏木立

○梅雨晴間堤防走るダンプカー

◎選者詠

○潟を出て海へ舟ゆく小判草　大崎紀夫

〈ワンポイントアドバイス〉

季語について迷うことがあります。「朝顔市」は夏、「朝顔」は秋。「雷」は夏、「稲光り」は秋。そう歳時記にあり、稲光りのあと雷鳴がとどろく句を詠むと、秋と夏の季語が重なってしまいます。「ビール」や「アイスクリーム」は年中飲み食いしているもので、いまや夏の季語としての実感がありません。これら季節のちがう季語、季感の失せた季語などをこれからどうすべきか、考える時期にきているようです。

投句募集

次回は「秋の季語」でご自由にお詠み下さい。10月20日を締切、平成29年1月発送の『新年号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。尚、選者が添削し掲載する場合がございますのでご了承下さいませ。皆さまの投句をお待ちしております。

〒107-0062　港区南青山2-26-38
梅窓院「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集

青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、下記の番号までご連絡下さい。

ウエップ編集室
電話03-5368-1870

平成28年度 後期 仏教講座のご案内

梅窓院では10月より平成28年度前期に引き続き、5名の先生をお迎えし、後期仏教講座を開講します。どうぞお気軽にご参加下さい。
※詳しくは別紙チラシをご覧下さい。

お檀家さんに伺いました

平成28年団体参拝旅行にて

「魅力溢れる光明寺」

私にとっては久しぶりの鎌倉で、日帰りということもあり気軽に参加することができました。参拝先の光明寺さんは歴史を感じる立派なお寺で感動しました。また、柴田台下から歴史や成り立ちなどのお話しを拝聴でき、とても貴重な経験となりました。昼食の精進料理は野菜が多く、健康的で美味しく頂けました。

平成28年施餓鬼にて

「母の代から参加しています。」

お施餓鬼も大事な行事ですので、母の代からかかさず来ております。「念仏と法話の会」では、皆様とご一緒のお念仏と五十年前ご修行中でいらしたご僧侶の方の法話をとても懐かしく拝聴しております。今年は3歳になりました孫も一緒に伺い、子ども広場にお預かり頂き家族揃って安心してお参りができました。

発　　行／梅窓院
発 行 日／平成28年9月1日
発 行 人／中島 真成
編　　集／青山文化村
住　　所／〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電　　話／03-3404-8447
F A X／03-3404-8436
ホームページ／http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail／jodo@baisouin.or.jp
題　　字／中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院より会計のご報告

会計報告を本誌に掲載させて頂いております。ご確認を宜しくお願い致します。

平成27年度会計報告

自　平成27年4月 1 日
至　平成28年3月31 日

■護寺費・年会費・墓地管理費

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
護寺費・年会費として	77,349	浄土宗課金及び大本山宛志納金	3,303
		法要費（仏具・法衣・線香など）	24,579
墓地管理費として	30,491	保守修繕費（建物）	43,422
		保守修繕費（墓苑・境内）	3,392
梅窓院からの繰入金	7,747	人件費	34,700
		事務費（郵送費・コピーなど）	6,191
合　計	115,587	合　計	115,587

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

日本エキスパートシステム 墓苑事業部からのお知らせ

暑い夏を迎え、お墓廻りの草木が元気に生い茂ってきました。以前ご案内した「墓苑清掃業務」のご依頼も増えて参りました。夏から秋にかけては特に雑草が増える時期です。定期清掃（年間契約）や命日などに代参等、お檀家様のご要望にできるだけ添うよう努力しております。秋彼岸に間に合わせたいとお考えの方はできるだけお早めに墓苑部にご連絡下さい。

草むしり	2,160円～
墓石洗い	1,080円～5,400円
植木手入れ	1,080円～
代参	1,080円＋香花代

梅窓院墓苑整備計画 ご協力のお願い

梅窓院墓苑につきましては、檀信徒の皆様のご協力をいただき日々環境整備を進めています。

最近、広い墓地をご利用されている方々より、一般的な墓所（墓地管理費の負担の少ない墓所）への移転希望が増えてきました。その結果一部墓域において、ここ数年で広い面積の空き区画が増加してまいりました。当院ではこのような状況を踏まえ、空き墓所が多くみられる墓域（9区B/C/D列）について秋彼岸後に区画整備を計画しています。

整備完了後には、新しい檀信徒をお迎えする新規墓所として活用する予定です。区画整備に伴い一部の方には移設等ご協力をお願いすることとなりました。対象となる方には個別にご案内を差し上げております。

大変ご迷惑をおかけしますが、何とぞご理解ご協力をお願いいたします。（梅窓院檀信徒部）